

日本プライマリ・ケア連合学会 専門医認定委員会
CSA(Clinical Skills Assessment)の評価の概要について

1. 家庭医療専門医認定試験における CSA の評価について

CSAとは Clinical Skills Assessment の略であり、実際の診察を想定した実技試験である。本評価では、主に診察と治療方針、コミュニケーションを評価する。

受験者は、小児・成人・高齢者が遭遇する日常診療で頻度の高い疾患や症候に対して、各々のライフサイクルやコンテキストを考慮した対応を 8 つのステーションで評価される(2021 年度実施の CSA は、従来の 6 つに手技・在宅のステーションを追加した)。なお、疾患・症候は重複していることもあるが、各ステーションの評価の観点は異なる。また、診療セッティングは診療所と病院が均等に出題される。

2. 各ステーションの評価の観点と取り扱う疾患及び対応

①日常病

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高い症候に対して、病歴と身体所見、持参した検査結果などからエビデンスに沿った判断と適切なケアを提供できるかを評価する。
 - ✓ 適切なケアとはエビデンスと患者の思いや背景も踏まえた個別性のあるケアを指し、現段階のケアだけでなく、再診時期やそれまでの過ごし方等も含めたケアを提供できることを指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患

- 循環器：本態性高血圧、二次性高血圧、慢性心不全、慢性心房細動、腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤、狭心症、陳旧性心筋梗塞、弁膜症、末梢動脈疾患
- 呼吸器：急性副鼻腔炎、急性中耳炎、急性上気道炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群、肺炎
- 消化器：逆流性食道炎、消化性潰瘍、過敏性腸症候群、小腸閉塞、胆石症、ウイルス性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、脂肪肝、慢性膵炎、鼠径ヘルニア、虚血性腸炎、憩室炎
- 腎泌尿器：慢性腎臓病、腎盂腎炎、過活動性膀胱、前立腺肥大症、勃起障害、膀胱炎、尿路結石
- 婦人科：月経異常、更年期障害、妊婦・授乳婦への投薬、乳腺炎、骨盤内感染症
- 代謝内分泌：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、偽痛風
- アレルギー/膠原病：アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、リウマチ性多発筋痛症、

蕁麻疹、接触皮膚炎

- 血液：貧血
- 神経：脳梗塞、パーキンソン病、パーキンソン症候群、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛、髄膜炎、本態性振戦
- 整形/皮膚：変形性膝関節症、骨粗鬆症、皮脂欠乏性皮膚炎、蜂窩織炎、皮膚白癬症、帯状疱疹、熱傷、薬疹

●症候

- 頭痛、耳痛、咳、鼻汁、咽頭痛、体重増加・肥満、体重減少・るいそう、倦怠感、めまい、便秘、下痢、食欲減少、胸痛、動悸、嘔気/嘔吐、呼吸苦、腹痛、胸やけ、腰痛、歩行障害、四肢の麻痺/しびれ、頻尿、血尿、月経異常、関節痛、皮膚のトラブル、浮腫、リンパ節腫脹、尿潜血陽性、尿蛋白陽性、便潜血陽性

②患者教育

概略評価の観点

日常診療で頻度の高いセルフケアが病勢を左右するような慢性の健康問題に対し、患者中心という点を重視しつつ、患者の行動変容を促すようなやり取りにおいて、エビデンスに基づいたアドバイスを行い、より好ましい意思決定を患者側にしてもらうことができるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患

- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、慢性心不全、慢性腎臓病、アルコール性肝障害、逆流性食道炎、消化性潰瘍、慢性膵炎、鉄欠乏性貧血、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、認知症、慢性頭痛、慢性腰痛、変形性膝関節症、ニコチン依存症、痛風・高尿酸血症、睡眠障害

●症候(疾患・症候を悪化させる生活習慣含む)

- 喫煙(禁煙後の再喫煙も含む)、飲酒、食事回数数の異常、過食、つまみくい、過度/過不足な運動習慣、健康食品やサプリメントへの依存、ある食物のみを摂取するダイエット、服薬ノアドヒアランス、多忙、独居

●対応(医療面接)

- 患者の行動変容を導くアプローチ、患者の考えの引き出し方、患者の考えや好みと医師側の推奨案の摺り合わせ

③高齢者

概略評価の観点

日常診療で頻度の高い症候や多数の健康問題を有する高齢者に対して、ライフサイクルと虚弱化を踏まえた適切な対応が出来るかを評価する。

- ✓ 適切な対応とは、本人の思いや QOL、心理・社会的問題、患者背景及び家族の思い、介護問題に関する情報収集を行い、本人と共に家族や介護者、介護・福祉と連携し、地域の資源を活用し、患者個別の目標を目指したケア方針の決定、その際の適切なコミュニケーション能力、継続的な「包括的統合アプローチ」を含んだ対応を指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患

- 循環器：本態性高血圧、慢性心不全、慢性心房細動、腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤、狭心症、陳旧性心筋梗塞、僧帽弁膜症
- 呼吸器：慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺炎
- 消化器：逆流性食道炎、消化性潰瘍、癒着性イレウス、ウイルス性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、鼠径ヘルニア、胃癌
- 腎泌尿器：慢性腎臓病、過活動性膀胱、前立腺肥大症、勃起障害、膀胱炎
- 婦人科：子宮脱、萎縮性膣炎
- 代謝内分泌：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、糖尿病、脂質異常症
- アレルギー/膠原病：アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、リウマチ性多発筋痛症
- 血液：貧血
- 神経：脳梗塞、パーキンソン病、パーキンソン症候群、認知症
- 整形/皮膚：皮脂欠乏性皮膚炎、蜂窩織炎、皮膚白癬症、変形性膝関節症、腰痛症、骨粗鬆症、褥瘡

●症候

- 排尿障害・失禁、食欲不振、難聴、視力低下、味覚障害、嚥下障害・誤嚥、体重減少、転倒、せん妄、廃用、低栄養、ポリファーマシー、睡眠障害、物忘れ(認知機能障害)、BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)、生活の破綻、閉じこもり・引きこもり、脱水、腰痛、老衰

●対応

- 抑うつへの対応、家族の介護負担への対応、成年後見制度、ケアカンファレンス(担当者会議)、家族カンファレンス、終末期ケア・緩和ケア、専門医との連携、訪問看護との連携、家族・介護・福祉との連携、予防介入(ワクチン、検診・健診、転倒予防、廃用予防、介護予防)、独居、老老介護・認認介護、経済的問題、虐待、施設におけるケア、訪問診療の適応と導入、在宅看取り、事前指示(ACP)、入院のメリット・デメリットの査定、退院支援

④心理社会

概略評価の観点

日常診療で頻度の高い心理的問題や健康の社会的決定因子に関わるような社会的問題を抽出し、患者とともに対応について相談しながら、必要に応じて薬物療法や、適切なケアの提案ができるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患

- うつ病、産後うつ、双極性障害、統合失調症、不眠症、適応障害、全般性不安障害、社交不安障害、パニック障害、強迫性障害、PTSD(Post Traumatic Stress Disorder)、身体症状症、摂食障害、アルコールや薬物など物質関連障害、広範性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、人格障害

●症候(疾患・症候を悪化させる背景を含む)

- 身体化症状、悲嘆反応、転移・逆転移、ストレス、労働問題、社会的格差、社会的排除

●対応

- 睡眠衛生指導、緊急性の有無の判断、専門科への紹介の判断、Difficult Patient Encounter、Bad News Telling

⑤小児

概略評価の観点

日常診療で頻度の高い小児の疾患・症候に対して、病歴、身体所見に基づき適切に診断とマネジメントを行うことができるかを評価する。

- 適切なマネジメントには、緊急性の評価や病院への紹介の必要性の判断、投薬のみならず、保護者の不安に配慮しながらエビデンスに基づいた的確な説明、アドバイスを行うことも含まれる。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患・症候

- ウイルス感染症：麻疹、風疹、ムンプス、水痘、咽頭結膜熱、インフルエンザ、ヘルパンギーナ、伝染性単核球症、ウイルス性発疹症
- アレルギー：気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー
- 呼吸器：クループ、細気管支炎、喘息性気管支炎、マイコプラズマ肺炎、細菌性肺炎
- 消化器：便秘症、嘔吐下痢症、腸重積、虫垂炎
- 泌尿器：尿路感染症、停留精巣、亀頭包皮炎、外陰腺炎
- 耳鼻：急性中耳炎、滲出性中耳炎、鼻副鼻腔炎、鼻出血、扁桃肥大、反復性耳下腺炎
- 脳神経：熱性けいれん、てんかん、髄膜炎、頭部打撲

- 皮膚：乳児湿疹、伝染性膿痂疹、伝染性軟属腫、アタマジラミ、蕁麻疹
- 整形：股関節脱臼、肘内障、側弯症
- その他：溶連菌感染症、川崎病、周期性嘔吐症、貧血、肥満症、チック、夜尿症、起立性調節障害、不登校

●対応

- 疾患・症候に関する保護者への説明(病態、検査の必要性、治療内容、登園・登校の可否、自宅でのケアの仕方など)
- 育児相談(成長・発達、生活リズム、夜泣き、かんしゃく、指しゃぶり、母乳・人工乳育児、離乳食、アレルギー、皮膚のケア、歯のケア、トイレトレーニングなど)
- 小児の予防医療(予防接種、事故予防)

⑥救急

概略評価の観点

日常診療で遭遇する頻度が高く比較的緊急性が高い症候・疾患に対して、まずバイタルサイン・病歴・身体所見などから緊急性を判断した後、問診を行いながら同時に適切な検査・治療の介入を行うことができるかを評価する。

- ✓ 適切な検査・治療の介入とは、診療のセッティングや患者の心理社会背景も考慮しつつ、診断に至る検査の組み立てや症状への対応を行い、予想される転機を考慮しながら治療方針を提案することを指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患・症候

- 頭部顔面：脳卒中、症候性てんかん、失神、くも膜下出血、慢性硬膜下血腫、髄膜炎、緑内障、急性めまい症候群、片頭痛、頭部外傷、鼻出血
- 胸部：大動脈解離、肺塞栓症、腹部大動脈瘤切迫破裂、気胸、心筋梗塞(ST 上昇型：STEMI、非 ST 上昇型：NSTEMI)、狭心症、急性心不全、肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)急性増悪、喘息、発作性上室性頻拍、心房細動、高度房室ブロック、誤嚥性肺炎、RS ウイルスによる細気管支炎
- 腹部：虫垂炎、急性膵炎、胆嚢炎、消化管穿孔、腸閉塞、消化管出血(上部・下部)、上腸管膜動脈閉塞症、肝性脳症
- 全身：DKA(Diabetic Ketoacidosis)、高血糖高浸透圧症候群、低血糖による意識障害、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼ、急性腎不全、高カリウム血症、高カルシウム血症、低ナトリウム血症、好中球減少性発熱、重度の貧血、高血圧症
- 整形/皮膚：大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、偽痛風発作、急性腰痛症、橈骨遠位端骨折、肘内障、顔面帯状疱疹、熱傷、褥瘡、蜂窩織炎、蕁麻疹、伝染性膿痂疹、

感染性粉瘤

- 耳鼻咽喉：扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、インフルエンザ
- 泌尿器婦人科：子宮外妊娠、卵巣嚢腫茎捻転、乳腺炎、妊婦さんの風邪、尿閉、肉眼的血尿、尿管結石、尿路感染症
- その他：敗血症、アナフィラキシーショック、薬物過量服薬、急性アルコール中毒、熱中症

●対応

- 自施設への入院適応の判断
- 後方病院への転院の判断
- 入院・転院させずに帰宅させる判断
- 入院・転院・帰宅に際して患者や家族への適切な対応
- 看護師や他職種への指示

⑦手技

概略評価の観点

日常診療で遭遇する頻度が多い手技を、診療のセッティングや患者の疾患、心理社会背景を考慮しながら、帰宅後のマネジメントも含めて適切に行うことができるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患・症候

- 簡単な切開・異物摘出・ドレナージ
- 熱傷の処置
- 褥瘡の評価、ケア、マネジメント
- 止血・縫合法および閉鎖療法
- 爪下出血、陥入爪の処置
- 胼胝、鶏眼の処置
- 局所麻酔(手指のブロック注射を含む)
- 関節注射(膝関節・肩関節等)
- 包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法
- 耳垢除去、外耳道異物除去

●対応

- 手技や処置の必要性に関する説明・同意
- 手技や処置の途中で患者の不安に配慮した声掛け

⑧在宅

概略評価の観点

在宅診療で遭遇する頻度の高い疾患・症候を有する患者・家族に対して、患者・家族の思いや背景を聴取した上で、個別性のあるケアや今後の過ごし方を提案できるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

●疾患

- 脳卒中後遺症・神経変性疾患・変形性脊椎症・脊髄損傷・認知症
がん末期・非がん末期(心不全・COPD・肝不全・腎不全)・膠原病
骨折(脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折)・褥瘡・老衰・感染症

●症候

- 四肢麻痺、転倒、嚥下障害、排尿障害、排便困難、腰痛症、関節痛、認知症 BPSD
発熱、倦怠感、食欲不振、悪心嘔吐、胸腹水、浮腫、呼吸困難、がん性疼痛
不眠、不安、抑うつ、せん妄
- 経管栄養、尿道カテーテル、在宅酸素、気管切開後、人工呼吸器管理、鎮静

●対応

- 訪問診療の適応の判断と導入、家族ケア、生活支援
専門医や医療スタッフ(訪問看護・訪問リハビリ等)や介護福祉スタッフとの連携
Advance Care Planning、意思決定支援